



**頂上～ヒナン小屋**  
 「もう一度また」剣岳に「さよなら」を告げ別山尾根を下る。大きな岩塊上を飛び降りながら最初のくさり場に着く。それを下ると右に廻り込む「カノの横」は「川」という一枚岩の大股への難所だ。次はくさり場3ヶ所につかまり、鉄バシゴ2ヶ所を下れば避難小屋前へ出る。

**一服剣～10:37ヒック**  
 一服剣から急下降して剣沢分岐を分け、ハイマツ尾根を登り下りながら、黒ユリノコルに着く。剣沢の雪渓が美しくカール状になり、小屋セテントが色とりよく散在して見える。コルから稜線の左側斜面を登り、更にガラ場の急登を頑張り、10:37ヒックの右側へ出る。

**稜線漫步は楽し**  
 展望開けた尾根道を右に左に行く。左手はなだらかな優美に感じ別山～真砂岳。すぐ右は屏風のように立つ立山(富士の折立～雄山)が黒々と威風凛々を見せている。10:50真真と。一旦下ってアン部が登り入り、尾根の左側斜面を巻けば「お花畑」にはキンギョウ、シナキキヤク、シシウド、リンドウなど咲き乱れ、その先の雪田で休憩する。

右手には、これから尋ねる大日三山が「ゆつたりと長く緑の峰々をなびかせている。真南は、浄土山、竜王、葛山や薬師と、ずと奥には形良、笠ヶ岳が裾を広げて見える。

右に巻けばおのりを左に入り、4m-状の岩登り。腕力で岩上へ出て、岩壁の横腹をくさりにつかまって通過、続くくさり場2ヶ所をへって8:58小キレットにあり。

**前剣～一服剣**  
 前剣から岩稜の左側を下り、ギザ段状の斜面をおりる。道は時々2つに分水が下り、下山は右へ右へと下る。一旦登ってくさり場がありヒックに着く。ヒックからは落石に注意しながら砂礫のガラガラ道を急下降する。途中お花畑と見ゆる余裕もなく「武蔵のコル」へ、6分の登りで一服剣に立つ。振り返れば剣はずっと彼方「よく下ったなあ」と言いつつ15分の小休止

**剣御前小屋～別山乗越**  
 雪渓上部よりひと登りしてヒックを越え、稜線左側を巻くようにして登れば、剣御前岳の三角点へ。その先、コースは花咲く稜線の左側を登り下りながら最後のヒックの左側を下りかけると、子供4匹連れた雷鳥親子が現れてビックリさせる。もう小屋はすぐ下に見え、砂礫をひと下りして登山者で賑わう別山乗越へ着く。休むことなく次のコース大目岳へ。

前大目岳はゆるやかな斜面の登りで、ガクを置いてアタックする。登り10分下り7分で、案外楽し。静かな頂上には青年が登痕をむすぼっていた。

**奥大目岳頂上**  
 奥大目岳からは、剣の西側が立山川を隔てて貝事な山容を誇り、今朝出発した伝蔵小屋からの厳しい早月尾根稜線、剣頂上からの岩壁岩稜が高度を下げて遠々と続く別山尾根、別山乗越からここまでジグザグに下ってまた登り上げた長い道のりが続いている。「よくまあ歩いたものだ」と、我ながら感激する一瞬…観光バスはアルペンルートへ運が客を絶えず運上げて、全く大パノラマの景観。

**稜線広場**  
 城壁のように立ち並ぶ立山連峰直下に広がる台地の大絵巻大展望はすばらしい。大きなミクリガ池、左隣りのシロカ池、血池、ムジウ池の湖面が光り、一の越から登山道が室堂バスターミナルに下り、ホテル立山が白く建っている。その手前の低地帯は、灰色をした地獄谷から硫黄の噴煙が立ち上がり、その周辺にはロッジ山荘が点在している。杯名川の源流が雷鳥平の上部へ突き上げて、立山連峰の奥深いヒダへ幾筋にも分かれてせり上がっている。

**大目小屋～大目平山荘**  
 大目小屋をぐるりと回り込んだ先の鞍部から道標に従って下山する。「もうこの登りは終わった…あとは下りのみ」元気が出して巻道を下る。色とりとりニッコウキスゲの咲く木々の斜面を下ると27分で冷たい水場に到着。早速水を飲み裸になって体を拭きサッパリとなる。もうあとは良い登山道をドンドン下り、コースタイム2時間は1時間10分で終了。